

四旬節が始まりました。イエス様の「受難に心を合わせる四十日間の祈りの旅です。私たちの罪と苦しみを背負つて歩まれたイエス様が最後にたどり着いたのは、カルワリオの十字架でした。何もかも奪い取られて、ただ十字架の木だけが一緒でした。キリストの十字架上の死を記念する聖金曜日の典礼で、私たちは「クルクス・フィデリス(十字架贊歌)」を歌

います。「けだかい十字架の木」すべてにまさるとうとい木その葉その花その実りいすこの森にも見られないうるわしい幹幸いな釘とうといからだを担つた木(「典礼聖歌三三六番」)

十字架の木

京都教区助祭

菅原友明



自分の罪が消し去られるように悔い改めて立ち帰りなさい。こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられたメシアであるイエスを遣わしてくださるのです。

使徒行録3・19 20 <http://www.machida-catholic.jp/>

カトリック町田教会
町田市中町3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

した。ハナミズキは、そのことを深く悲しんで泣いていましたが、イエス様が「もう大きな木になることはない」と言つて慰め、それ以来ハナミズキは今のような小さな木になつたのだそうです。実際にはパレスチナにハナミズキではなく、十字架に何の木が使われたのかはわかつていません。でも、たしかにハナミズキは十字架を思わせます。四枚の花びらが十字架の形をしていますし、花びらの先が少し痛々しくひきつりねじ曲がり、そこが赤くじんじでいて、まるで釘跡の血のようです。そして、秋になると、鮮やかな赤い実をつけ、葉も紅に染まるその姿が、十字架で血まみれのイエス様のお姿と重なります。

「クルクス・フィデリス」

の九番にこうあります。「世

の救いになつた木 十字架

の木だけが 間に漂うこの世

界を港に導く救いのふね 小

羊の血潮に染まるとうとい木」

私たちを纏つた神の小羊の

血潮が十字架の木を赤く染め

ました。かつてモーセが民を

エジプトから導き出した時、

この間の皆様のご協力にまず、

心より御礼申し上げます。

思えば二年前、子供が小さ

かつた頃は毎週欠かさず

ていたミサに、多忙を理由に

年間だったような気がします。

運営委員の一年目は、何も

わからないまま、涉外と地域

ブロックを担当させていただ

きました。

一年目は、規約改正により

運営委員の定数が減つたため、

れていた家の子らが死を免れて生きたように、キリストの風に揺れる白やピンクの花びらの、その一枚一枚の先端が、釘跡の血のように赤くにやがて私たちの四旬節の祈りが深まり、自分を閉じ込めているエジプトを知り、そこで奴隸にされている惨めな自分でいる事実が見えてきた時、その罪のために十字架上で血だらけになつているイエス様のお姿も見えてきます。イエス様が流された血が私たちを贖い、私たちはそれぞれの工ジブトから解き放たれて、永遠の故郷、カナンを目指して歩み始めます。

この尊い過越しをお祝いする復活祭が終わると、よい

宣教司牧実習をさせていたきました。町田教会の皆様に心より感謝申しあげます。皆様に支えられて、大切なことをたくさん学ばせていただきました。どうぞ私が司祭職を果たしていくことができますようにお祈りください。皆様おひとりおひとりの歩みの上に、神様の祝福が豊かにありますように、いつもお祈りしております。

一年間を振り返つて

運営委員会議長 佐藤玲子

受けすることにいたしました。

お引き受けした当初は、一年の任期がとても長く感じられ、このような長期に亘つて責任を全うできるか不安でいっぱいでした。今、振り返つてみると、あつという間の一年間だったような気がします。

運営委員の一年目は、何も

わからないまま、涉外と地域

ブロックを担当させていただ

きました。

運営委員の定数が減つたため、

いました。

私はささやかな罪滅ぼしの気持ちから、運営委員をお引き

まさかこの私が議長を務めることになってしましました。議長になつてみて、これまで二十年近く教会に通つていながら、教会の仕組みを何もわかつていなかつたことに初めて気が付かされました。

けれども、神父様はじめ、

運営委員会のメンバーに支えられて、どうにか一年間を終えることができました。

また、任期中は信徒の皆様から、いつもありがたい励ましやお礼の言葉をかけていた

運営委員は退任いたしますが、これからも微力ながら何か教会のお手伝いは続けていきたいと思っています。

今回退任される運営委員の皆様には、お疲れ様でした。今年一年目の運営委員の皆様および今年から新しく運営委員になられる皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

運営委員の仕事は大変だと思われがちですが、実際に務めさせていただいて、教会という組織がわかるようになりましたし、また、運営委員にならなければ出会えなかつた方々とも新たに出会つことができ、実り多い二年間だったと思います。

とは言つても、運営委員のなり手は少なく、毎年、人選に苦労しています。

これからは、一人でも多くの方が、教会運営に関心を持つてください、運営委員をお引き受け下さる方が増えることを願つてやみません。

集い、祈り、活動できる空間づくり

施設管理委員

大木 雅信

信者一人ひとりが想いをこめ、祈り、犠牲を捧げ、未來への責任を果たそうと二〇〇一年に献堂された町田教会も建設後十五年を迎えました。施設管理委員会は、二〇〇七年の発足以来、多くの方々が築かれてきた町田教会の資産を皆様とともに維持し、さらに使いやすく有用な内容で改善し、次世代に引き継いでゆきたいとの想いで活動をしております。

施設管理業務を担う私共、委員会にとり有難いことは、皆様から建物や設備につき気づかれたことの連絡、ご提案、要望等をいつも頂いていることです。即応できないものもありますが、しつかり受け止め、関連案件はまとめて対応するなど、できるだけの努力をしております。

また施工にあたつては、聖堂の十二本の柱材をトラピスト修道院まで出向かれ選定された方、聖壇什器を製作された方、自ら工房を主宰され、現在は自ら工房を主宰されています。

2015年1月1日(イラスト: 池永)

世界平和の日 教皇メッセージ



いる方、電気設備工事を担当現役を引退後、「ご子息とともに自らも補修工事に関わっている方など、町田教会に強い想いを、また関わりを持つ方に協力をいただいております。

教会内外の多くの方々に支えられていることに、心から感謝をしたいと思います。

昨年の信者総会で説明、承認いただいた中長期修繕計画に沿い検討していた空調設備改修も、本年の信者総会にて工事計画を報告し最終確認を経て、東京大司教区での審議、施工承認、発注をお願いするところまで進捗しました。

その間、各委員会との調整を経て、都度、東京大司教区事務局に相談し助言、ご指導をいただきました。また、工事計画に対する第三者からの所見リポート評価もいただきました。経年変化や整備不良などから冷暖房能力が五十九に低下しているため、当初の想定より規模は大きくなりますが、現在の設備が抱える課題を解決するコストパフォーマンスの高い工事となります。本年の夏前には安心して使えるシステムを稼働させる予定です。併せてシステム機器の定期点検、保守整備、機器清掃などの保守管理体制も整備いたします。

今後も、中長期修繕計画を基礎に適時に改修を進めます。新しく町田教会に併せて新しい時代の町田教会にむけ信者の皆様の様々な司牧活動がスムーズにまた安全にできる改善も、経費の有効活用の視点で進めてゆく予定です。新しく町田教会に来られた方、若い世代や高齢者に配慮した設備・器材の整備などが想定されます。これからも信者の皆様、各委員会との連携、東京大司教区のご理解、協力を得ながら、委員会の責務を果たしてまいります。今後とも、よろしくお願ひいたします。

美しいハーモニーへ

聖歌奉仕グループ

上綱 敦子

私達は毎週水曜日に主日の典礼聖歌の練習をしています。水曜のミサが終わると、皆さんはぞぞぞぞとオルガンのそばに集まり一つの輪になつて座ります。さあ練習の始まりです！初めは小さな声ながら、練習が終わるころになると聖堂にハーモニーが響き渡るようになります。

一人ひとりの声が違うようになります。ミサの中で歌われる典礼聖歌に対する考え方もさまざまです。まず意見を出してもう一度、その中でどのように舵を取つていくのかは大変なこ

ともあるのですが、そこから少しづつ進むという方法をとっています。もちろん意見が食い違い、言い合いになることもあります。難しいで食い違い、言い合いになることもあります。難しいでとも正直あります。難しいで

練習では、時々まず詩編を読んでいます。言葉はすぐシンプルなのですが、本当に皆で考えさせられてしまうことがあります。

クリスマス近くになると聞き慣れた音楽も多く、皆さんいつも以上（？）に張り切ります。またオルガンで奉仕されている方も忙しくなります。ミサではオルガンの音量、音だしのタイミング、音色など、皆さんいつも考えていて、ミサが終わつた後、話し合つている姿を見かけます。

また私達は聖週間、復活祭の曲は前もつて繰り返し練習をしています。葬儀の時も、集まつた方たちで限られた時間内でハーモニーをつくり、リクエスト曲があればできる範囲内でお応えしています。

このように私たちは、自分達のできる形で奉仕をしています。

いつも思うことがあります。水曜日に練習した典礼聖歌が、ミサになると、とても美しいものに変化するのです。不思議です。聖堂全体の空気が一

カリタス原町ベースを訪れて

水野 貴久子

東日本大震災から間もなく

四年。支援活動の拠点の一つ原町ベースは津波と原発事故の一重被災地、南相馬市にあ

る。福島原発から二十数キロ、近くの原町教会の庭の放射線量は0.2マイクロシーベルト前

後。震災前教会隣の幼稚園には八十人いた園児が現在は三

十人。

昨夏「野馬追祭り」で賑わつた広場は0.8マイクロシーベルトで人影もなく、馬事公苑

も閉鎖されたまま。その静寂が身を刺すように感じた。ベ

ルトで人影もなく、馬事公苑

も優しく仲間にしてくれた。おしゃべりを聴いている

と、避難生活が長引くにつれ

人々の苦悩は深まつてゐるよ

寺内仮設住宅の集会所ではカラオケや手芸などを楽しんでいる人たちに会つた。方言

は半分も理解できない私を誰もが優しく仲間にしてくれた。おしゃべりを聴いている

と、避難生活が長引くにつれ

人々の苦悩は深まつてゐるよ

寺内仮設住宅の集会所ではカラオケや手芸などを楽しんでいる人たちに会つた。方言

は半分も理解できない私を誰もが優しく仲間にしてくれた。おしゃべりを聴いている

と、避難生活が長引くにつれ

人々の苦悩は深まつてゐるよ

寺内仮設住宅の集会所ではカラオケや手芸などを楽しんでいる人たちに会つた。方言

は半分も理解できない私を誰もが優しく仲間にしてくれた。おしゃべりを聴いている

と、避難生活が長引くにつれ

人々の苦悩は深まつてゐるよ



黒い袋がきちんと積み上げられていた。作業員に放射線の影響がなければよいが…。原発事故さえなければ豊かでの牛の世話を来ていた。無心に草をはむ牛たちにどんな希望があるのだろうか？

寺内仮設住宅の集会所ではカラオケや手芸などを楽しんでいる人たちに会つた。方言

は半分も理解できない私を誰もが優しく仲間にしてくれた。おしゃべりを聴いている

と、避難生活が長引くにつれ

人々の苦悩は深まつてゐるよ

うに思えた。除染が進んでも元の家に帰るのは容易ではない。東電の賠償金の打ち切りが予想される中、将来の見通しも立たない。元は地縁血縁の絆が強かつた地域で、家族間にも住民間にも溝が生じている。夕方からの外出は危険と聞いて驚いた。

さて、祈りのほかに私にできることは? ベースに来るボランティアさんの食事作りや洗濯の手伝い。被災者とお茶を飲み、おしゃべりを聞きながら手芸をすることくらい。皆さまにはもつとできることが必ずおありでしょう。

マルコによる福音書注解
メアリー・ヒーリー著
田中昇神父訳



この本は注解書ながら、聖書物語を読んでいるように面白い。簡潔といわれているマルコを女性らしい細やかさで掘り下げ、カトリック教会としての視点から最新の聖書研究のものとに記されている。

題目ごとに区切られた本文の前後に、わかりやすい解説が語られる。地図や人名、用語の説明、時代の背景など情報も豊富。聖書への深い思い入れの込められた訳者あとがきは必読。

(横塚千枝子)



クリスマスお泊り会
12月13日～14日



ヨゼフ会新年会(1月25日)

信者動静

2014年11月～2015年1月

(個人情報のため、削除しています)